

2004年12月の小泉内閣メールマガジンを讀み返してみると、次のような小泉純一郎首相のメッセージがある。

「北京では、いま青森のりんごがひとつ2000円で売られているそうです。本当かと思つて調べてみると、リンゴ輸出が

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

16

べてみると、北京のデパートで青森りんごが150円で売られている。1元が約15円ですから、2000円以上になります。これにはびっくりしました。今までは日本の農家は輸入を阻止しようとばかりしていました。販売重視への発想転換が、発想を切り替えて日

本の農産物も輸出でき

る、もつと世界に輸出すべきだ、そついう考えでこれからやつていくべきではないかと思ひます」

当時、この話はあちこちで紹介され、国を挙げたの攻めの農政推進の旗頭として、リンゴ輸出が

攻めの農政へ転換

国・県が支援し輸出促進

の1つであった。

ほぼ同時に国と県で農

林水産物輸出促進に関する体制作りが進み、10年

以上たった現在もその時の組織が機能している。

本県では、04年に青森県農林水産物輸出促進協議会（会長・黄孝春弘大教授）が発足、現在も活躍している。

県内農林水産業の輸出関連団体・機関が参加して、輸出戦略を練り、海外での販売促進や消費宣伝など官民一体となった取



中国・広州市の高級スーパーで販売されていた世界一。1箱6個入りで11800円。1個当たりだと約2千円

り組みで成果をあげてきた。戦略の特徴の一つは、輸出相手国の状況に応じても段階に分けて輸出促進活動を展開し、海外市場を開拓していくというもので、リンゴの輸出目標は計画で掲げた3万トンを早々と達成している。国でも新成長戦略で農林水産物の輸出額を2020年までに1兆円とする目標を掲げて、さらに輸出促進に向けた支援体制や関連施策を充実させている。環太平洋連携協定（TPP）で海外から攻められる印象が強いが、ここは何とかピンチをはねのけチャンスにして輸出拡大に取り組みたいものだ。

（りんご輸出協会事務局長 深澤守）

国際経済課提供